

次世代企業基準における企業構築という現実

令和5年12月5日

黒田インターナショナルコンサルティング

黒田 毅

これらは新しい現実への参加の絶対的な条件である。これは明らかに現実の変化が存在し新しい未来という現実への参加においては不可避である。

これらは既存現実における常識が、これら IT 革命とともに完全に崩壊したことを理解しなくてはならない。これらは既存価値観において現実はもはや存在していないのである。これらは一部上場の企業はこの変化を理解できるものであるが、グローバリゼーションのもとより深い真実においては、これら次世代基準における企業転換が新しい市場への参加の条件であることは必ず正しいのである。

これらは IT 化とシステム化、インダストリー 4.0 におけるより高い効率性と生産性における企業経営と次世代製品基準のクリアにおける市場参加の必要性なのである。

これらはグローバル企業がその資本力とともに、新しい企業経営への転換を完了させる中、日本企業は既存現実を離れることができないことは真実なのである。これらは既存基準と判断が未だ現実を支配することは、グローバル基準という新しい現実における市場参加を不可能とするのである。

これらは、企業がこれら自己システムへの転換を終了させることが、新しい市場への参加の条件であることは正しいはずである。

ビジネスの新しい潮流は、必ず存在するのである。それらはより高い生産性や効率性において、先端 MBA システムとともに、先端企業はより優れた未来への参加を現実としているのである。

これらは経済戦争の敗戦の後に来る黒船である。しかし企業は自らの企業努力とともに、これら企業転換を完了させることは可能であり、これらは変化という未来への正しい選択なのである。

これらは、変化が存在し、その早さは想像に勝ることを意味する。しかし競争というルールにおけるビジネスや買いにおいてはこれら現実は不可避なのである。